

Advanced Features of Photoshop 5.x

Tatsuo Minohara

2002.Autumn

■印刷に関しての色表現・再現性について

★印刷用の特殊インキ指定を使う

→DICカラー、Pantoneカラー、TOYOカラーが使える

色見本フローティングパレットのメニューの色見本を読み込むで使うことができる

★ディスプレイを色補正する

→モニタコントロールパネルで調整する方法

色温度調整→モニタの白い色（白色点）の移動（5000～6500～9300）絶対温度（°K）

ガンマ特性調整→グレースケールにおけるコントラスト、すなわち中間調の移動（1.0～1.8～2.2）

出力明るさ＝係数×（入力明るさ）の γ （ガンマ）乗

三刺激値調整→三刺激値は、ほぼ赤・青・緑に対応する

★カラープロファイル（Color Profile）

→Photoshopの中のファイルメニューのカラー設定を使う

調整後のプロファイル（調整値を持つ）を画像ファイルに付属させることができる。

印刷のときまで、使われ、見ている色と印刷された色に違いがないように補正される。

作業用のRGBやCMYKのプロファイルが指定できる。たとえば、あるプリンタに出力することがきまっている場合、そのプリンタ用のプロファイルを用いて、カラー編集しておけば、最後の出力まで色味が変わらない。PDFファイルなどは、カラープロファイルを持つことができる。

★ColorSyncを使う

→カラー設定の中のメニューとしてAppleの標準の機能である。ColorSyncの設定を選ぶことができる。また、コントロールパネルのColorSync（MacOS XでSystem Preferencesの中にある）において、入力、出力、ディスプレイ、色校正などのプロファイルを指定することができる（Mac OS Xの場合は、RGB、CMYK、グレースケールに対してのプロファイルを指定できる）。

■フィルター

画像に対して特殊効果を与えるもの

カラーモードによって適用できるフィルタが限られてきたりする（CMYKモードとRGBモード）

補正に関する効果

→ぼかし、シャープ、ノイズ、ビデオ系

描画手法に関する効果

→アーティストック、テクスチャ、ピクセレート、スケッチ、ブラシストローク、表現手法

変形に関する効果

→変形、3Dトランスフォーム

塗りつぶしに関する効果

→描画サブメニューにはいっているもの、雲模様など

サードパーティのプラグインを買ってくると増やすことができる。

■レイヤー

スライドの重ねあわせのようなもの

一番下に背景レイヤーがある（削除も可能）

★操作

作成／削除（メニューまたは下のボタンで）、表示／非表示（目のボタン）、

順序関係の入れ替え（ドラッグ）、複製（新規ボタンに既存レイヤーをドラッグイン）、

一部複製（選択範囲を設けておいて、レイヤー→新規レイヤー→レイヤーをコピー）、

描画の対象となるレイヤーの選択（クリック→筆のアイコン）

★レイヤー上の画像部分の選択

Command キーでクリックするとレイヤーに含まれる画像を選択ツールで選択したようにできる。

選択範囲だけ指定して、描画の対象となるレイヤー間を移動することもできる

★ファイル出力とレイヤー

表示・非表示を利用して

単独のレイヤーだけを出力

レイヤーを保存したままの場合は、Photoshop形式のファイルで保存

★レイヤーのオプション

描画モード、透明度、リンク、透明部分の保護

描画モードによる色彩の投影（上のレイヤーで描画モードを色彩に変える）

描画モードを彩度にして、グレースケールにする、さらに透明度を加える

★文字レイヤー

文字を描画してみる。文字の部分だけを選択したり、編集したりすることができる。

★レイヤーの効果

ドロップシャドウ／シャドウ／光彩／ベベルとエンボス→fマークがレイヤーに表示される

★レイヤーの結合／統合

下のレイヤーと結合、表示部分の結合、リンクの結合、画像を統合

★レイヤーマスク

フローティングパレットの下部のレイヤーマスクボタンを押す。

レイヤーマスク上にブラシツールなどで描画→マスク効果をすることができる

選択ツールで選択範囲を作っておき、レイヤーマスクボタンを押して、マスクを作ることできる

Shiftキーを押してサムネールをクリック→時的にOFFにすることができる

Optionキーを押してサムネールをクリック→画面上にマスクの状態を表示させることができる

レイヤーマスクにフィルタやレベル補正などを適用できる

★調整レイヤー

その下のすべてのレイヤーに反映される

複数のレイヤーに対して色調補正をするときに用いる

★レイヤーのグループ化

新規レイヤーを作るときに下のレイヤーとグループ化のチェックボックスをON

あるいはレイヤーパレットで、Optionキーを押しながら境界線をクリック

あるいはレイヤーメニューから

グループ化された1つのレイヤーにフィルタを適用する

調整レイヤーをある1つのレイヤーだけに適用するときにも使うこともできる

★ブレンドスライダ

レイヤーメニューでレイヤーのオプションを選ぶ。

ダイアログで、ブレンド条件を使う（グレースケールと各チャンネルに対して適用できる）

選択されたレイヤーの調整と、下になっているレイヤーの調整

■チャンネル

★カラーチャンネル

色分解されるチャンネル、RGB、CMYK、Labなど

合成チャンネルは各色をまとめたもの

★スポットカラーチャンネル

印刷用の特殊インキを使うときに作成

★アルファチャンネル

選択範囲を保存、読み込み

チャンネルを画像と一緒に表示する

クイックマスクモード

チャンネルを調整して選択範囲を得る

照明効果

■Webインターフェースデザイン

一貫したデザイン・一番小さいモニタで再現（640×480）・解像度・配色・色数・色補正

インターフェースコンポーネント→ボタン、メニュー、タイトルロゴなど

意匠的に加工された文字のことをロゴと呼ぶ。タイトル用として使われる。

ロゴについては、レイヤーの効果で、簡単に作ることもできる。

文字レイヤーを選択して、別レイヤーを作り、エンボスなどのフィルタで加工する。

Webセーフティーカラー→216色。MacintoshとWindowsで色みの変化が起こらないもの。

このカラーを使う場合、Photoshop（8.0以降のIllustratorでも）、カラーフローティングパレットに、キューブマークが表示される。

■参考文献

フォトショップ講座1および2、ベン・ウィルモア、MdNコーポレーション